

消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

【事故概要について】

1. 事故・ヒヤリハットの別	ヒヤリハット
2. 体験した事例の名称	濃煙内でホースを辿って退出しようとしたが、ホース上になんらかの障害物があり、退出できなくなった事案
3. 体験した事例の中心的要素	一般住宅の炎上火災、隊員3名で玄関から筒先を持って屋内進入中、一旦退出の命令が出たため、筒先員は筒先を持ったままホースをUターンして退出しようとしたところ、ホースが何かに引っ掛かり退出できなくなった。(他の2名はホースを伝って退出した。)やむを得ず筒先を置いてホースを辿って退出しようとしたが、ホース上になんらかの障害物があり、腰付近にこれが当たってその先に進むことができなかった。ホースを辿ることができなかったため、ホースを離して明るく見える方面をへ進んだところ、玄関とは90度逆側の勝手口から退出することができた。
4. 体験した事例の原因・理由	活動中にホースの上に家具などの障害物が倒れてきたか、ホースを動かした事でホースがなんらかの部分に入り込み、退出路が塞がれた。 ホースを辿れば退出できると信じ切ってしまうのではなく、常に自身の退出路についてアンテナを張る事、複数の退出経路を確保しておく必要がある。 また、1名を取り残して他の2名は退出してしまっており、お互いに退出状況について連絡を取り合う必要があった。

【体験した事例の直接的原因について】

1. 体験した事例の直接的な原因	情報入力に問題があった。(指示や助言が聞こえなかった。近くの隊員に気付かなかった等)
------------------	--

【体験した事例について】

1. 発生日時	平成26年某月某日
2. 発生した当時の天候	晴れ
3. 発生した活動現場	屋内: 炎上火災の一般住宅の屋内
4. 体験した事例の種類	回答者が、自分自身で負傷しそうになった。
5. 事故の程度(ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度)	死亡していた(させていた)だろう
6. どのようなことが起きたのか(起きそうになったのか)	火傷・熱傷、その他: 空気呼吸器のエア切れによる窒息・一酸化炭素中毒
7. 事例体験時の活動	火災現場活動初期、[木造建物]
8. (7の活動中)どのような作業中に発生したか	放水活動
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した

● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●

○当事者A	年齢[29]歳、勤続年数[6]年、現場経験年数[6] 年、階級[消防士長] 同様の活動 [1年に数度]、任務 [隊員]
○当事者B	年齢[33]歳、勤続年数[]年、現場経験年数[] 年、階級[消防士長] 同様の活動 [1年に数度]、任務 [隊員]
○当事者C	年齢[35]歳、勤続年数[]年、現場経験年数[] 年、階級[消防司令補] 同様の活動 [1年に数度]、任務 [隊員]
○その他(当事者が4人以上の場合)	

	誰が(何が)	なにをした	その他・備考など
経過1	隊員3名(A,B,C)が	炎上火災の建物内に 玄関から筒先を持って屋内進入した	
経過2	上席のC隊員が	退出を指示した	
経過3	B・C隊員が	ホースを伝って退出した	
経過4	A隊員が	筒先を持ってUターンしようとしたができなかった	
経過5	A隊員が	筒先を放棄し、ホースを伝って退出しようとした	
経過6	A隊員が	ホースを伝うが障害物に当たって進めなかった	
経過7	A隊員が	ホースを離して、明るい方向に進んだ	
経過8	A隊員が	勝手口から退出した	
経過9			
経過10			
経過11			
経過12			

● ●

○事故の場合：事故が起きたのはどうしてだと思うか？

○ヒヤリハットの場合:ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

体力、反射神経等身体能力が優れていた 危険情報を把握、予見できた 危険事象の対応方法を知っていた 集中力、注意力があった
避難退避がうまくいった 個人装備が適切だった たまたま、事故にならなかった その他:木造住宅の1階であった。昼間であった。冷静であった。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	はい
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	はい
・活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	はい

d. 心身の不調があった。

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用 방법이誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境(雨・濃煙)によって視界がさえぎられた。

・障害物(建物等)のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境(煙、暗闇、降雨等)のため周囲の状況が見えなかった。	はい

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	はい
・暑かった(寒かった)。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	はい
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった(適切な指示を与えられなかった)。

・活動指示が得られなかった。(無線が通じない等。)	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。(周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。)	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	はい
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

--

【事故発生後の取り組みについて】



○注意力欠如、焦り等の対策について

--

○装備・資機材の対策について

--

○活動環境の対策について

--

○指揮・情報伝達の対策について

--

